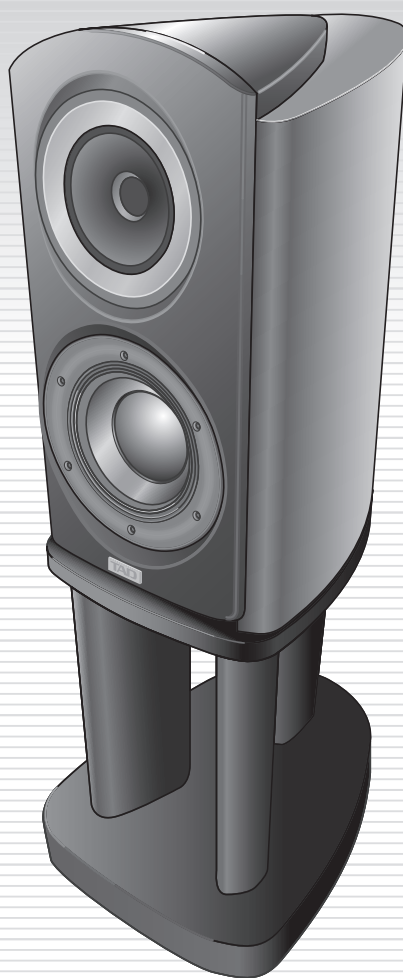


TECHNICAL AUDIO DEVICES LABORATORIES, INC.

TAD

TAD Compact Reference



**TAD-CR1 SPEAKER SYSTEM
OWNER'S MANUAL**

日本語翻訳版

はじめに

このたびは、テクニカル オーディオ デバイセズ ラボラトリーズ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。このオーナーズマニュアル（取扱説明書）をよくお読みになり、正しくお使いください。特に本書の「安全上のご注意」は必ずお読みください。また、本製品を最高のパフォーマンスでご使用いただくために、本製品に接続する機器の説明書もよくお読みください。なお、取扱説明書は後々お役に立つこともありますので「保証書」と一緒に保管してください。

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々の財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。



⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。



Ⓢ記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。

ご使用の前に

- ①このスピーカーシステムのインピーダンスは、4 Ω です。負荷インピーダンスが 4 Ω のアンプ（スピーカー出力端子に 4 Ω の表示があるもの）へ接続してお使いください。
- △スピーカーを過大入力による破損から守るため下記の注意事項をお守りください。
 - ・許容入力以上を入力しない。
 - ・本機を含む AV 機器をアンプへ接続するときは、アンプの電源を OFF にする。
 - ・グラフィックイコライザーで高音を大幅に増強する場合、音量を上げすぎない。
 - ・小出力アンプで無理に大きな音を出さない（アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがある）。



注意

【設置】

- ・ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- ・テレビ、オーディオ機器等に本機を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は市販のコードを使用してください。
- ・この製品は天井に吊り下げたり壁に掛けたりしないでください。落ちてけがの原因となることがあります。

【使用方法】

- ・音が歪んだ状態で長時間使わないでください。スピーカーが発熱し、故障や火災の原因となることがあります。
- ・本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。
- ・本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- ・同軸ユニット（トゥイーター、ミッドレンジ）には強力な磁気回路を用いています。鉄などの磁性体を不用意に近づけないでください。振動板を破損する恐れがあります。

組み立て、取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、改造、天災などによる事故損傷については、当社は一切責任を負いません。

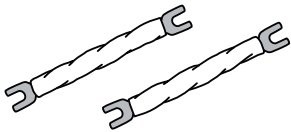
もくじ

はじめに.....	2	スパイクの取り付けかた.....	9
付属品の確認.....	3	グリルカバーの取り外し.....	9
TAD について.....	4	設置場所を決める.....	10
TAD の歴史.....	4	スピーカーシステムを接続する.....	11
TAD Compact Reference の特長.....	4	シングルワイヤリング接続.....	11
テクノロジー.....	5	バイワイヤリング接続.....	12
ベリリウム・ダイヤフラム.....	5	バイアンプ接続.....	13
CST.....	5	バーチカルバイアンプ.....	13
ウーファー.....	6	水平バイアンプ.....	14
CST マウント構造.....	7	システムの調整.....	15
エンクロージャーの構造.....	7	ウーファーのパフォーマンス向上のために.....	15
クロスオーバー・ネットワーク.....	7	臨場感向上のために.....	15
エンクロージャーの仕上げ.....	7	最終調整について.....	15
設置.....	8	スピーカーシステムのお手入れ.....	16
設置に際してのご注意.....	8	保証とアフターサービス.....	17
設置のしかた.....	8	仕様.....	18

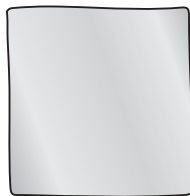
付属品の確認

アクセサリキットの箱の中に、以下のものが入っていることを確認してください。

- 短絡コード × 2



- クリーニングクロス × 1



- コーン型スパイク × 3



- 丸型スパイク × 3



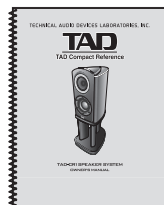
- スパイク受け × 3



- コルクシート × 3



- オーナーズマニュアル
(英語版) × 1

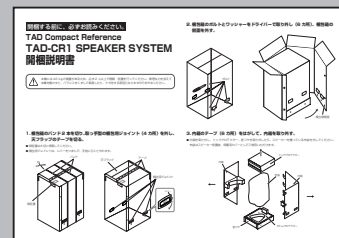


日本で販売される TAD Compact Reference には以下のものが付属しています。

- オーナーズマニュアル
(日本語翻訳版 / 本書) × 1
- 保証書



- 開梱説明書 × 1
(外装箱に貼付してあります)



TAD について

TAD の歴史

TAD (Technical Audio Devices) は、1975 年の設立以来プロフェッショナル録音スタジオのスピーカーシステム製作を続け、プロユーススピーカーとして音の現場の最先端で活躍し、最高の性能を持つスピーカーとして揺るぎない地位を維持しています。TAD の製品は、世界中のミュージシャンやプロフェッショナル向けオーディオシステム設計者の最も厳しい要求を満たすよう、至高の技術とノウハウを駆使し、設計、製作、生産されています。

TAD スピーカーシステムのコンポーネントは、スタジオモニター、サウンドリインフォースメントシステム、講演会場やコンサートホール、映画館オーディオシステムなど、最高品質の再生能力が必要とされている多くのプロフェッショナルシーンで活躍しています。この高い品質水準により、世界トップクラスの録音スタジオではオーディオパフォーマンスのために、オリジナル録音やデジタルマスター録音に TAD のコンポーネントを採用しています。

そして近年、ホームオーディオ市場から高品位なスピーカーの登場が待ち望まれるなか、TAD ブランドの実績を受け継いだ最高水準のオーディオコンポーネントをご家庭にお届けします。

TAD Compact Reference の特長

TAD Compact Reference スピーカーシステムは、ホームオーディオ市場では画期的な製品です。

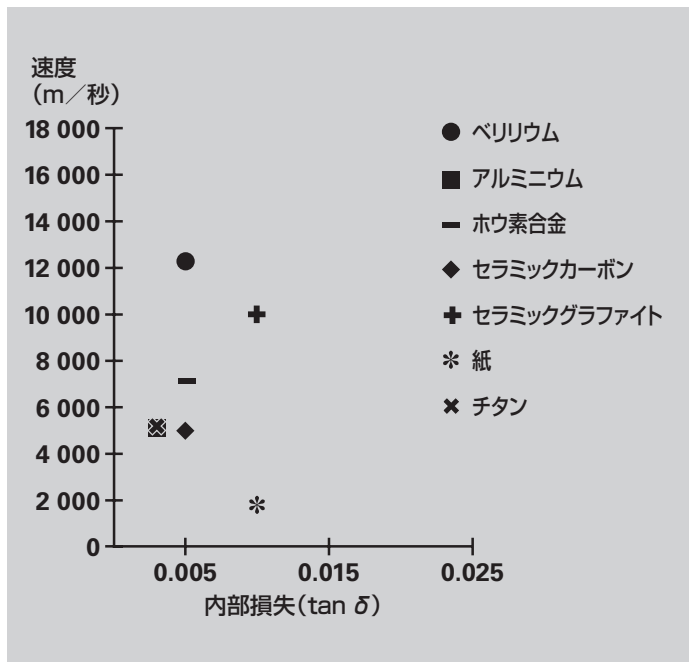
プロフェッショナルのスタジオモニタースピーカーとして、トップクラスのスピーカーシステム開発で最高のクオリティを提供します。

TAD Compact Reference のパフォーマンスのコアは CST (Coherent Source Transducer) と呼ばれる、TAD オリジナルのベリリウム・ダイヤフラム設計を特徴とする同軸ユニットです。ベリリウムをトゥイーター・ドームとミッドレンジ・コーンの双方に採用し、周波数域 250 Hz から 100 kHz をカバーするポイントソースラジエーターを提供しています。CST に加えて、20 センチ・ウーファーが新開発の高剛性キャビネットに収納されています。この結果、きわめて広帯域無共振の最高品質モニター用スピーカーシステムとなっています。

ベリリウム・ダイヤフラム

TAD Compact Reference スピーカーシステムは、ミッドレンジとトゥイーターのすべてのダイヤフラムに独自のベリリウム製作技術を採用しています。ダイヤフラム向けに利用できる金属の中では最も軽量かつ硬質なベリリウムの強度とダンピング特性は、現在ハイエンドのオーディオスピーカーシステム製作で使用されている素材の中で最高のパフォーマンスを実現します（第1図参照）。

ベリリウムの軽量さと比類ない強度を組み合わせると、ダイヤフラムの共振はドライバーユニットの動作帯域を大幅に越えたところまで広がります。これにより完璧に近いスピーカーのピストン動作が得られ、その結果、透明な音質と高精度の再生が実現されます。



第1図：ベリリウムとその他の素材の速度特性

CST

システムのコアとなるドライバーはCST (Coherent Source Transducer) です（第2図参照）。トゥイーター・ダイヤフラムはミッドレンジ・コーンの頂点に同軸で取り付けられ、250 Hz から 100 kHz の音声のポイント音源となります。時間コヒーレント特性は、ベリリウムの優れた強度で実現されたミッドレンジ・コーンの浅い断面によるもので、精密にコントロールされた放射パターンを生じます。

CSTによりリスナーの耳に達する直接音と反射音の完璧な周波数バランスが保証され、リスニングルームのどこでも均質なサウンドが得られ、臨場感が拡大します。

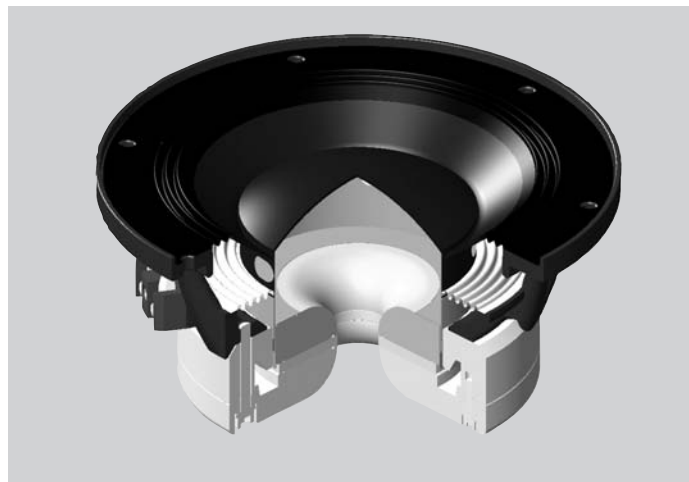


第2図：TAD Compact Reference のCST

ウーファー

TAD Compact Reference スピーカーシステムの基盤となるのは、第3図に示すウーファーです。ドライバー・コーンは、発泡アクリルコアをサンドイッチ状に挟む両面織アラミド繊維によるトライラミネート構造です。これによりコーン強度はきわめて高くなり、低域大音量の通過で加わる強い力による変形を防ぎます。

大出力時のリニアリティを確保するために、モーター構造にショートボイスコイル／ロングギャップ構造、ファラデー・ショート・リング、新たな磁路設計とともに、最新のダンパー、マルチロール・エッジを採用し、歪みの低減を徹底追求しています。



第3図：TAD Compact Reference のウーファー

CST マウント構造

CST ドライバーは、ドライバーからの音放射のふるまいを最適化するために形作られたヘッド部をもつ高剛性エンクロージャーにマウントされています。

また、パフォーマンスの向上をさらに追求するために、ISO ドライブ技術を採用し CST ドライバーをエンクロージャーから構造的に分離しています。

これによりエンクロージャー振動の原因となる機械的エネルギーを大幅に低減し、遅れを伴う共振の低減と、細かなディテールの解像度向上を実現しました。

エンクロージャーの構造

エンクロージャーを無共振にできなければ、最高のドライバー技術でも満足なサウンドを達成できません。

TAD Compact Reference のウーファーエンクロージャーは、厚さ 21 mm の樺合板を骨組みとして強固な枠組みを構成し、高周波加熱プレス成型した厚さ 30 mm の側板と、最大 65 mm の CNC 加工合板を貼り合わせて形成されています。

また、バスレフのポート部は、TAD のコンプレッションドライバーとホーン的设计思想をベースにし、徹底的に風切り音を低減し、クリアで深い低音を実現しています。

その結果、本体質量 46 kg という重さと相まって、力強い低音再生とクリアで繊細な低音表現を達成しています。

ティアドロップ形状は音の回折が低減され音場表現と強度的にも優れ、エンクロージャーの不要共振と内部定在波の排除にも貢献しています。

クロスオーバー・ネットワーク

クロスオーバー・ネットワークには最高の部品だけが使用されています。信号路内の空芯コイル、無誘導抵抗、フィルムコンデンサーはすべて慎重に選択され、CST ドライバーに最適化されたもので、信号の透過性を最高度に維持しています。

ウーファーは積層鉄心コイルを使用して、ハイパワー低サチュレーションを実現しました。

すべての部品は肉厚銅配線の高級ガラスエポキシプリント基板に取り付けて、パフォーマンスの安定性と再現性を保証しています。

エンクロージャーの仕上げ

エンクロージャーは、希少で非常に美しい天然木を使用し、透明着色仕上げをほどこしました。表面は職人が時間をかけ丹念に磨きこんだ美しい鏡面仕上げとなっています。

本製品のエンクロージャーの表面材には天然木を使用しています。天然木ならではの良さを十分に引き出す仕上げをしておりますので、製品によりエンクロージャーの色・柄が多少異なります。






設置に際してのご注意

- 本製品の総質量は 46 kg です。設置場所がこの質量に十分耐えられる設置面であることをご確認ください。
- また、スパイクを使用する場合、スパイク 1 個あたり 15 kg 以上の荷重がかかりますので、接地場所に跡や凹みができる場合があります。キズつきを避ける場合は、付属のスパイク受けを使用する、または 1 個あたりの接地の面積が大きく十分強度のあるスパイク受けをご用意ください。
- スピーカーシステムにスパイクを使用している場合、移動の際に設置面にキズがつく原因となりますので、設置場所を移動する前にスパイクを取り外してください。
- 本機は約 46 kg の重量があるため、傾けながらスパイクの取り付け作業を行うことは大変危険です。キズのつかない柔らかい布などの上に寝かせて、必ず 2 人以上で作業してください。取り付ける際には、スピーカーシステムに指を挟まれたり、スピーカーシステムが倒れないようにご注意ください。

設置のしかた

床やラックに設置する

本機のキャビネット底面にはアルミのプレートが取り付けられており、設置面が平らである場合は、そのまま設置することができます。また、本機には 2 種類のスパイク、およびコルクシートが付属していますので、設置面の状態に合わせて最適な設置方法を選ぶことができます。以下を参考にして設置方法を決めてください。

	設置場所	スパイク形状
コルクシート	平坦な場所	
コーン型スパイク	平坦な場所	 コーン型スパイクを使用する場合は、設置面のキズつきを防ぐため、付属のスパイク受けを使用してください。
丸型スパイク	じゅうたんを敷いた床など、設置面が平坦でなく、コーン型スパイク（スパイク受け付き）を使用しても安定しない場所	

別売りのスピーカースタンドを使用して設置する

このスピーカーシステムはブックシェルフ型のため、床に直接置くと床面からの音の反射が大きくなり低音部が強調されて聴きづらくなる場合があります。この場合は、置台を使用して床面から離してください。一般的には、高音用のスピーカー（トゥイーター）とリスナーの耳の高さが同じになるように設定すると良い結果が得られます。なお、置台には弊社スピーカースタンド「TAD-ST1」をお勧めします。TAD-ST1 をお使いのときは、落下防止のため、必ずスピーカーシステムをネジで固定してください（詳しくは TAD-ST1 の取扱説明書をご覧ください）。

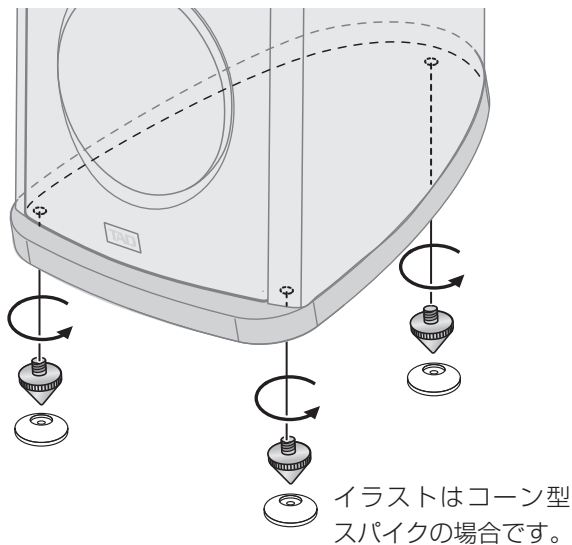
• 専用スタンド TAD-ST1（別売り）のご紹介

TAD Compact Reference の性能を最大限に引き出すために、専用スタンド TAD-ST1（別売り）を本体と同時に開発しました。高い制振性、重心位置の安定化など、最適化を図っています。

スパイクの取り付けかた

スパイクを使用することで設置面に対してしっかりと設置することができます。スパイクはキャビネット底面に3カ所使用します。3カ所で支えることで、スパイクの高さを微調整することなく、設置面に対してガタツキのない設置をすることができます。

10ページの「設置場所を決める」を参考に、設置場所が決まったら第4図に示す場所にスパイクを取り付けてください。キャビネット底面のアルミプレートには、スパイクを取り付けるためのネジ穴があります。



第4図:TAD Compact Reference スピーカーシステムへのスパイクの取り付け

グリルカバーの取り外し

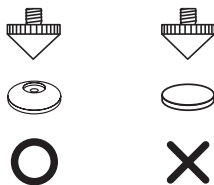
ウーファーには、グリルカバーが装着されていますが、このスピーカーシステムをご使用の際には取り外してください（第5図）。グリルカバーを取り外すには、グリルの端を持って取り出します。外したグリルカバーは、本機の移動や保存の際に使用しますので、保管しておいてください。



第5図:TAD Compact Reference スピーカーシステムのグリルカバーの取り外し

⚠ 注意

スパイク受けは下図のように、中央にくぼみのある面を上にして置いてください。



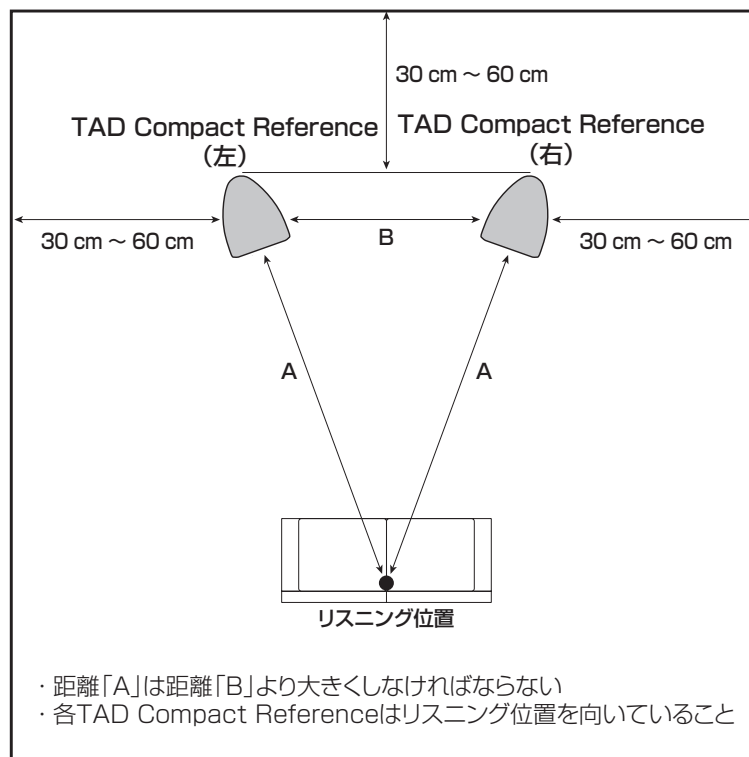
設置場所を決める

リスニングルームでのスピーカーシステムの設置状態は、低音の再生能力、音の正確性、臨場感の面で TAD Compact Reference スピーカーシステムの総合パフォーマンスに大きく影響します。部屋の環境によって設置のしかたが異なりますので、このセクションはガイドのみを目的としています。実際に部屋で設置を試してみることで、最適な結果が得られます。

はじめに、第 6 図のように、スピーカーシステムをリスニングルームの壁面から 30 cm ~ 60 cm 程度、両側の壁から 30 cm ~ 60 cm の場所に置きます。リスニング位置は 2 つのスピーカーシステムからほぼ等距離がよいでしょう。また、スピーカーシステムを内側に向けて各軸がリスニング位置を向くようにします。

次に、11 ページの「スピーカーシステムを接続する」で述べるようにオーディオシステムを接続します。

さらに、15 ページの「システムの調整」で述べるようにスピーカーシステムの設置を最適化します。



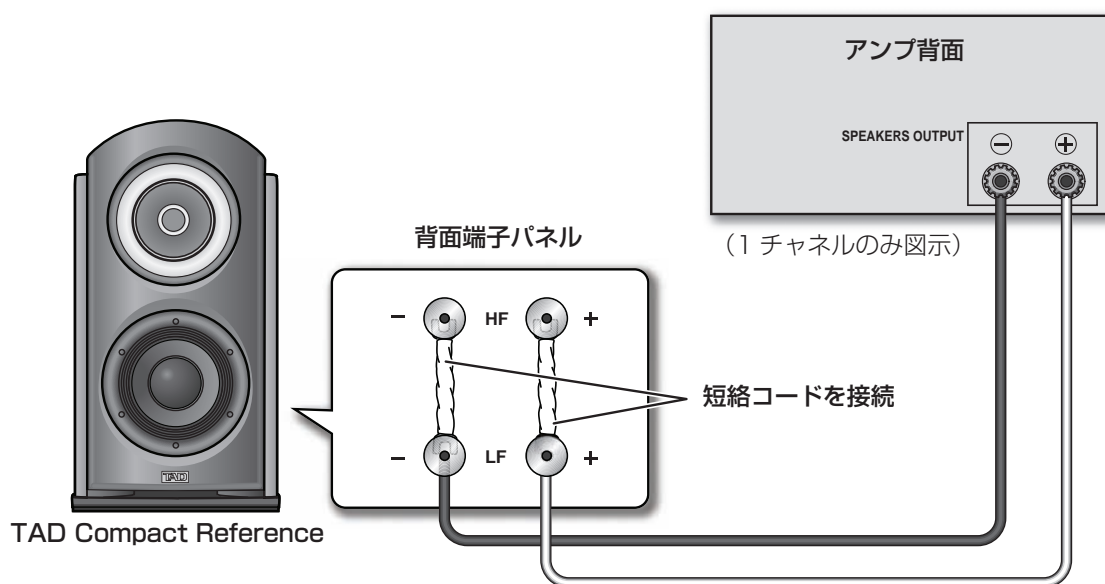
第 6 図 : TAD Compact Reference の 2 チャンネルセッティング例

⚠ 注意

- 機器の接続や変更を行う場合は、必ずアンプや他の機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 接続するにあたって、本機にはスピーカーコードは付属しておりません。スピーカーコードは市販のものをご使用ください。

シングルワイヤリング接続

シングルワイヤリング接続をするには、付属の短絡コードでクロスオーバー・ネットワークの低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域の部分相结合します。第7図のように、短絡コードを使用して上下のHF(High-Frequency)端子とLF(Low-Frequency)端子を短絡させ、アンプからの（+）線をいずれかの赤の接続端子に、アンプからの（-）線をいずれかの黒の接続端子に接続します。



第7図：TAD Compact Referenceの
シングルワイヤリング接続

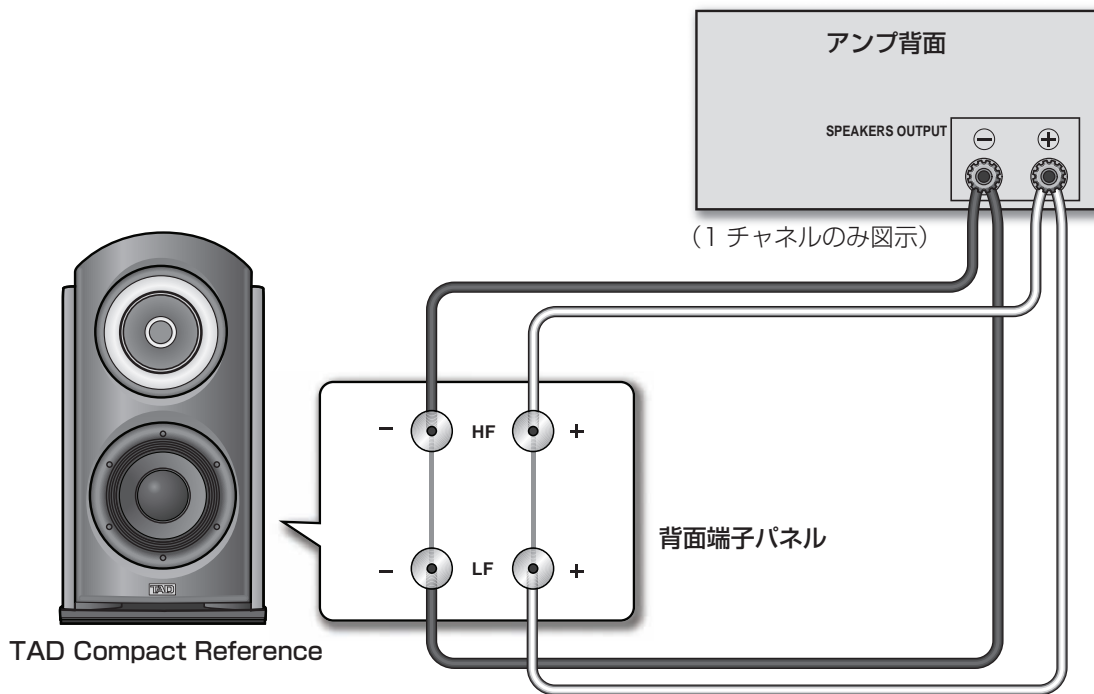
バイワイヤリング接続

バイワイヤリング接続では、アンプからのスピーカーケーブルを個別に低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域に接続します。これにより、TAD Compact Reference スピーカーシステムのウーファー、CST ドライバーが直接アンプに接続され、2つのドライバーに対してケーブルタイプを自由に最適化することができます。

1組のスピーカーケーブルを、LF 端子（ウーファー用ネットワーク）に接続します。そしてもう1組のスピーカーケーブルを、HF 端子（CST 用ネットワーク）に接続します。次に2組のスピーカーケーブルをともにアンプの適切な端子に接続します。第8図のように、必ずそれぞれのケーブルの（+）側をアンプの（+）端子に、（-）側をアンプの（-）端子に接続してください。

⚠ 注意

バイワイヤリング接続をする場合は、スピーカーケーブルを接続する前に短絡コードを取り外してください。



第8図：TAD Compact Reference のバイワイヤリング接続

バイアンプ接続

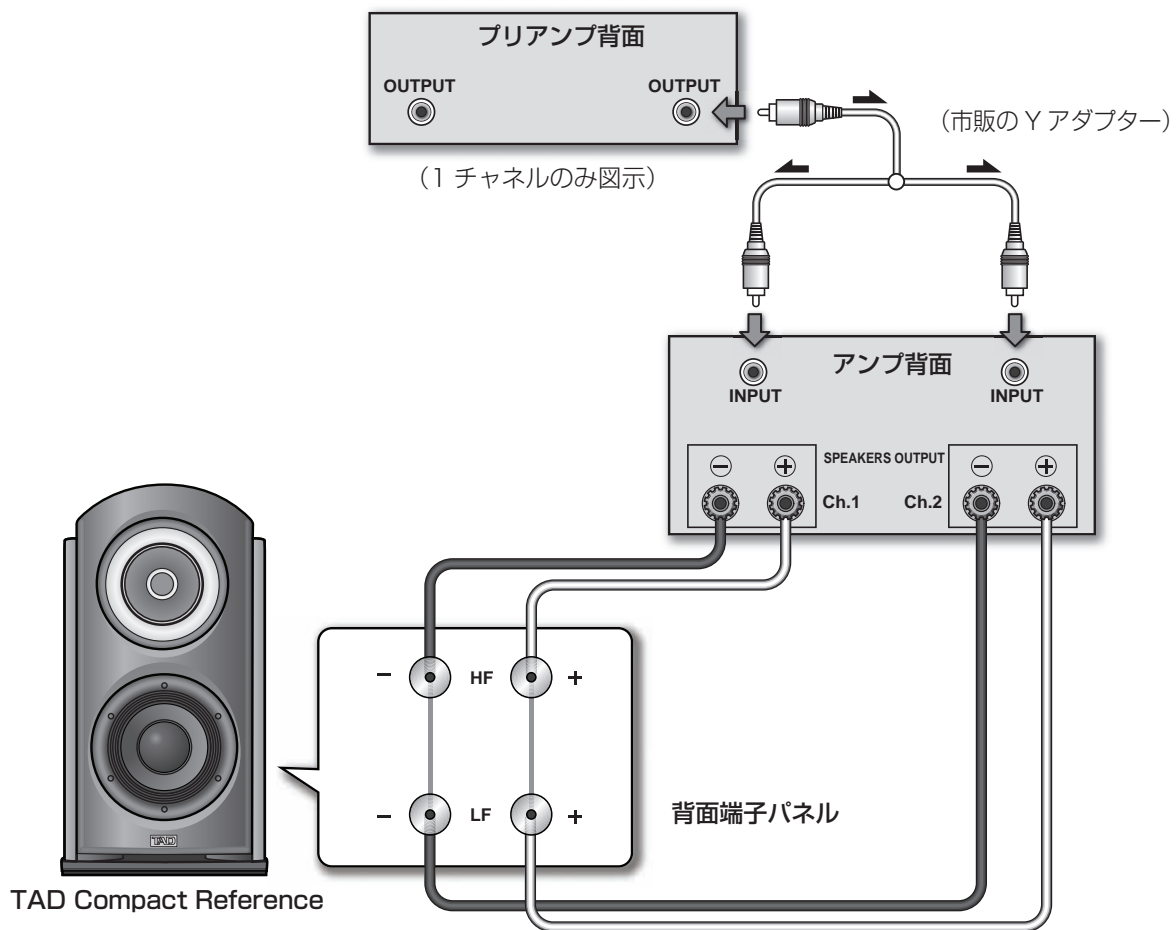
バイアンプは、低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域について専用のアンプを使用することで、TAD Compact Reference スピーカーシステムの最高のパフォーマンスを発揮できます。2つの接続方法が可能であり、一般的には水平、垂直のバイアンプといいます。

⚠ 注意

バイアンプ接続をする場合は、スピーカーケーブルを接続する前に短絡コードを取り外してください。アンプを破損する原因となることがあります。

垂直バイアンプ

この接続では、同じステレオアンプを各スピーカーシステムに使用します。第9図のように、各アンプの1チャンネルで低周波数域を駆動し、他のチャンネルで高周波数域を駆動します。1組のスピーカーケーブルをアンプのチャンネルとLF端子（ウーファー用ネットワーク）に接続します。それから、もう1組のスピーカーケーブルをアンプの他のチャンネルとHF端子（CST用ネットワーク）に接続します。必ずそれぞれのケーブルの（+）側をアンプの（+）端子に、（-）側をアンプの（-）端子に接続してください。

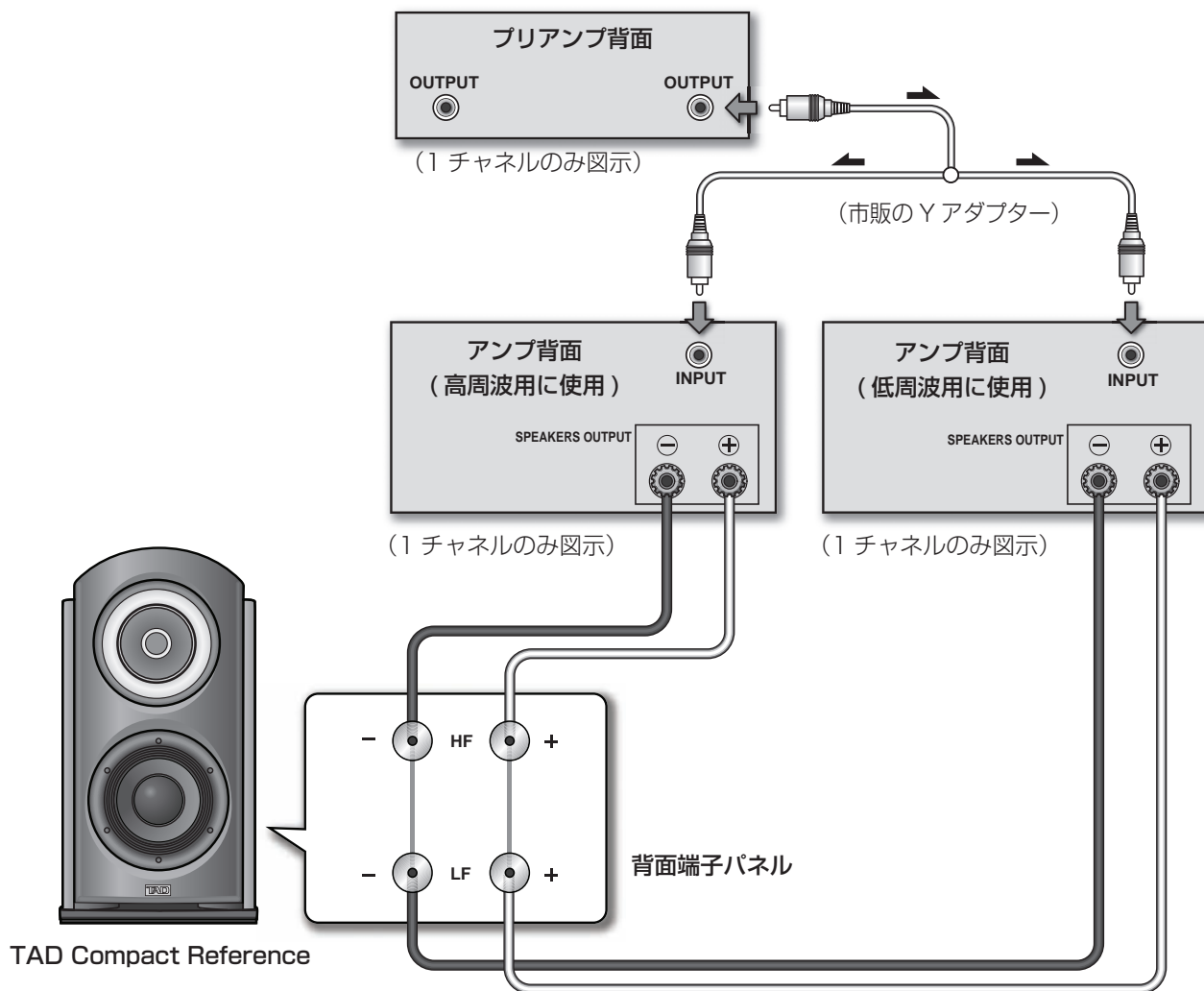


第9図：TAD Compact Reference の
垂直バイアンプシステム接続

水平バイアンプ

この接続では、異なるステレオアンプをスピーカーシステムの低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域に使用できます（たとえば、高周波数に真空管アンプ、低周波数にソリッドステートなど）。第10図のように、1つのアンプの各チャンネルで各スピーカーシステムの低周波数域を駆動し、他のアンプの各チャンネルで高周波数域を駆動します。

この方式は、2つのアンプが同じゲインであることが必要です。そうでないと低周波数再生と高周波数再生の間でスピーカーシステムに不均衡が生じます。ご不明な点は販売店にご相談ください。



第10図：TAD Compact Referenceの
水平バイアンプシステム接続

ウーファースのパフォーマンス向上のために

アコースティック弦楽器のベースのような低音がよく録音されている音楽を選びます。すべてのベースの音階がほぼ同じレベルであるかを聴きます。もし、いずれかの音が他の音より強調されているようなら、音階が最も均質になるまで TAD Compact Reference スピーカーシステムを移動させてみます。

通常は壁に近づけると低音のベース出力が増大しますが、音階の高い方で不均質になることがあります。側壁に近づけたときと背面に近づけたときでは同じ効果にはならないので、両方に動かしてみても最も快適な音になるようにします。

ドラムの音も聴きます。キックドラムは低周波数のふくらみがなくタイトで速く聞こえると良いです。スピーカーシステムの位置が数センチ変化するだけでウーファースのパフォーマンスに大きな影響を生じることがありますので、時間をかけて多くの位置で試してください。

作業を早く済ませるための裏技は、人と話しながら室内を動き回ってもらうことです。声が反響なく最も自然に聞こえる位置を聴き分けて、その場所にスピーカーシステムを置きます。

臨場感向上のために

センターイメージの強い音楽を選び、その音像が正確にスピーカーシステムの中央に定位するように、焦点を合わせます。臨場感が不明確で広がってしまうときは、おそらく側壁が強い反射を起こしています。この効果を下げるためには、スピーカーシステムを中央に寄せます。これで近づきすぎると、リスニング位置の前方で軸が交差するようにスピーカーシステムの間に入ってみます。CST ドライバーの優れた軸外パフォーマンスにより、側壁反射の強さが低減して臨場感が安定し集中します。

また、きれいに録音されたアコースティック音楽を聴いて、臨場感が広く深いかを確認します。深さが不足しているとしたら、スピーカーが壁に近すぎるからです。その場合は、スピーカーシステムを前に移動してみます。

最終調整について

あるパフォーマンスを調整するためにスピーカーシステムを動かすと、他のパフォーマンスが低下することもあります（たとえば、臨場感の精度を上げると低音の応答性が悪化するなど）。このようなときは、リスニング位置を移動してみます。低音の応答性はスピーカーシステムとリスニング位置の双方に強く影響を受けますが、臨場感はほとんどスピーカーシステムの位置だけで決まります。したがって、臨場感の調整で低音域が低下したら、リスニング位置を変更するとパフォーマンスが戻ります。

部屋の特性もサウンドに大きな影響を与えます。家具が少なく、床が硬い「ライブ」な部屋はサウンドに人工的な広がり感覚を与えますが、緻密さや正確さが低下します。家具が多く、じゅうたんやカーテンなどが多い「デッド」な部屋では乾燥した生気のないサウンドになり、十分なサウンドレベルまでスピーカーシステムを駆動するためにはかなり多くのパワーを必要とします。つまり、その中間に最適な場所があります。硬質で仕切りのない平行な壁、特に側壁は強いフラッタ型エコーを生じ、臨場感に悪影響を与えるので避けてください。カーテン、壁掛け、本棚で長い壁に仕切りを作ってみます。また、臨場感を損なわないよう、部屋のレイアウトがあまり非対称にならないようにします。

スピーカーシステムのお手入れ

TAD Compact Reference スピーカーシステムはポリマー仕上げとなっており、グランドピアノと同様のお手入れが必要です。エンクロージャーにほこりや指紋がついたときは、付属のクリーニングクロスで拭き取ってください。

⚠ 注意

エンクロージャーやグリルのお手入れには、クリーナーや研磨剤を使用しないでください。

本機はエンクロージャーの表面材に天然木を使用しております。直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。天然木の収縮によるエンクロージャーの変形、変色およびスピーカーが故障する原因になります。

人が不快に感じる環境は、スピーカーにとっても同じです。快適な環境でご使用していただくことにより、本来の性能を十分に発揮できます。ご使用場所の環境は以下を目安に、冷暖房装置および加湿器や除湿機などの使用をお勧めします。温度：15℃～25℃ 湿度：35%～65%（冬期） / 40%～70%（夏期）

- クーラーやストーブなどで、お部屋を急激に冷やしたり暖めたりすると、お部屋が乾燥しすぎる場合がございます。
- 外気の影響を受けやすい窓際などでは、結露する恐れがありますのでご注意ください。

保証書（別添）について

保証書は、必ず「お買い上げ店名・お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間は購入日から3年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理についてのご相談窓口にご相談ください（裏表紙）。

連絡していただきたい内容

- ・ご住所
- ・お名前
- ・お電話番号
- ・製品名：スピーカーシステム
- ・型番：TAD-CR1
- ・お買い上げ日
- ・故障のまたは異常の内容（できるだけ具体的に）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。



ステレオ再生のエチケット：

ステレオの音量はあなたの心掛け次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間は小さな音でも隣近所へ通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。

仕様

商品名

TAD Compact Reference

型番

TAD-CR1

形式

バスレフ式ブックシェルフ型

ドライブユニット

ウーファー：20 cm コーン型

ミッドレンジ/トゥイーター：同軸

16 cm コーン型

3.5 cm ドーム型

パフォーマンスデータ

再生周波数帯域： 32 Hz ~ 100 kHz (-10 dB)

40 Hz ~ 20 kHz, ± 3 dB : 前面平均特性

クロスオーバー周波数： 250 Hz, 2 kHz

適合アンプ出力： 50 W ~ 200 W

出力音圧レベル： 86 dB (2.83 V, 1 m 自由空間)

インピーダンス： 4 Ω

質量： 46 kg

外形寸法：

341 mm (幅) x 628 mm (高さ) x 444 mm (奥行)

付属品

開梱説明書 (外装箱に貼付)

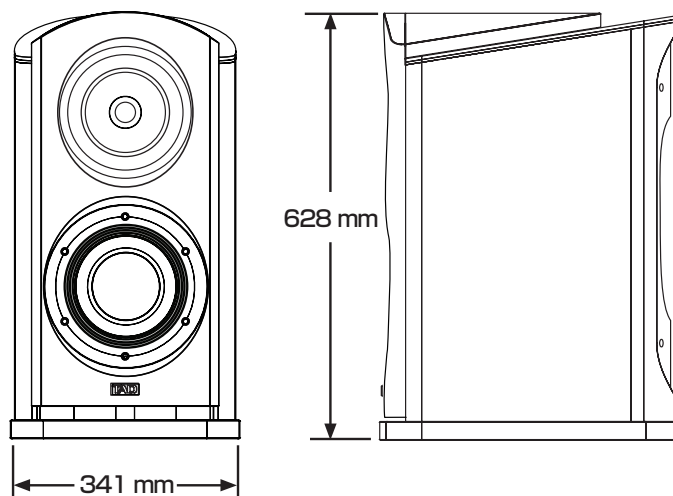
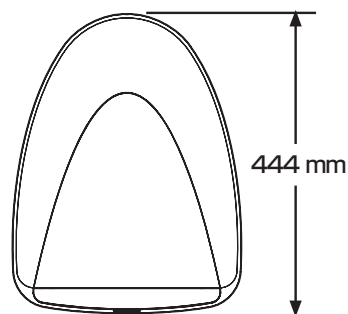
アクセサリキット

- ・ クリーニングクロス × 1
- ・ 短絡コード × 2
- ・ コーン型スパイク × 3
- ・ 丸型スパイク × 3
- ・ スパイク受け × 3
- ・ コルクシート × 3
- ・ オーナーズマニュアル (英語版) × 1

日本で販売される TAD Compact Reference に付属：

- ・ オーナーズマニュアル (日本語翻訳版 / 本書) × 1
- ・ 保証書

本書記載の仕様および構造等の詳細は、改善のため予告なく変更することがあります。



第 11 図：TAD Compact Reference
スピーカーシステムの外形寸法

商品についてのご相談窓口

- 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

パイオニアカスタマーサポートセンター TAD相談窓口

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00
(土曜・日曜・祝日・パイオニアカスタマーサポートセンター休業日は除く)

電話  0120-995-823

ファックス 03-3490-5718

修理についてのご相談窓口

修理をご依頼される場合は、取扱説明書をご覧になり、故障かどうかご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

- お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

パイオニア修理受付センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00
(日曜・祝日・パイオニア修理受付センター休業日は除く)

電話  0120-5-81028 ※ PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。

一般電話 03-5496-2023 ※ 携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ファックス  0120-5-81029

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品(付属品、取扱説明書など)のご購入について

パイオニア部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00
(日曜・祝日・パイオニア部品受注センター休業日は除く)

電話  0120-5-81095 ※ PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。

一般電話 0538-43-1161 ※ 携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ファックス  0120-5-81096

インターネットホームページ

本書以外に下記ホームページもご覧ください。

<http://tad-labs.com/support/>